

原敬記念館第63回企画展

原敬と大慈寺



令和4年6月25日(土)～令和4年9月11日(日)

原敬記念館小ホール 企画展示コーナー

- 開館時間
9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日
毎週月曜日 (祝日の場合は翌平日)
- 入館料
一般 200円 (団体 120円)
小・中学生 50円 (団体 30円)
団体入館料は30人以上の団体に適用します



指定管理：公益財団法人盛岡市文化振興事業団

原敬記念館

HARA-KEI MEMORIAL MUSEUM

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮4丁目38-25
TEL:019-636-1192 FAX:019-636-1185

主催／原敬記念館 (所管：盛岡市教育委員会)、公益財団法人盛岡市文化振興事業団 共催／原敬を想う会

原敬記念館第63回企画展 原敬と大慈寺

令和4年6月25日(土)～令和4年9月11日(日)

原敬の菩提寺として知られる福聚山大慈寺は、開創300年を有する盛岡の名刹です。

原と大慈寺の関わりは、原の祖先が大慈寺の檀家として受け入れられたことに始まります。祖先が大慈寺に世話になったことを知った原は、山門の再建や本堂・庫裡の新築費などを寄進しました。

原の没後、大慈寺は彼を慕う人々が訪れる聖地のような場所となり、毎年原敬忌追悼会を営むなど、原の遺徳を伝え続けています。

この展示では、大慈寺の歴史や原家との縁をひも解きながら、原敬と大慈寺の関わりについて紹介します。

はら たかし
原 敬
[1856～1921]

安政3年(1856)2月9日、岩手郡本宮村に生まれる。盛岡藩士・原直治の二男。藩校・作人館に学び上京、司法省法学校、郵便報知新聞記者等を経て外務省に入る。やがて政界へ進出、内務大臣等を経て第19代内閣総理大臣となった。日本初の本格的政党内閣を組織した「平民宰相」として支持を集めたが、大正10年(1921)11月4日、東京駅にて兇刃に倒れた。享年65歳。

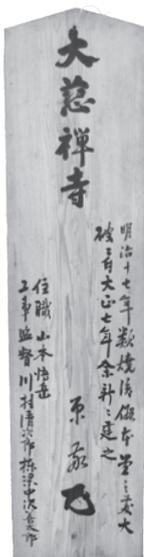


横川良助編「寺賞矩格」
(福聚山大慈寺蔵)

横川が、大慈寺の什物や歴史及び歴代和尚などについてまとめたもの。27巻現存している(「大慈寺之一」が欠)。盛岡市指定有形文化財。

「大慈寺棟札」
(当館蔵)

棟札には、明治17年(1884)の盛岡大火により類焼後、仮本堂を建てたが大破したため、原により大正7年(1918)に新築したことが記されている。



上野廣一「原敬」・「原浅」(福聚山大慈寺蔵)

原の庇護により渡仏し、洋画を学んだ上野が描いた夫婦の肖像画。大慈寺の境内に移築された原の別荘・腰越荘に飾られている。

企画展関連講座

演題／原敬と大慈寺

講師／中野千恵子(原敬記念館主任学芸員)

日時／令和4年8月20日(土) 13:30～15:00

受付／令和4年8月6日(土)

10:00から電話にて受付(先着15人)

参加費／無料

担当学芸員による展示解説

日時／①令和4年7月17日(日) 13:30～14:15

② // 8月20日(土) 15:15～16:00

③ // 9月11日(日) 13:30～14:15

受付／①7月3日(日)、②8月6日(土)、③8月28日(日)～

いずれも10:00から電話にて受付(各回先着15人)

参加費／入館料が必要(但し②のみ同日開催の講座参加者は無料)

(公財)盛岡市文化振興事業団からのお知らせ (他館のご案内)

盛岡市先人記念館

第65回企画展「高橋嘉太郎 -盛岡の新聞人-」

令和4年7月2日(土)～9月4日(日)

石川啄木記念館

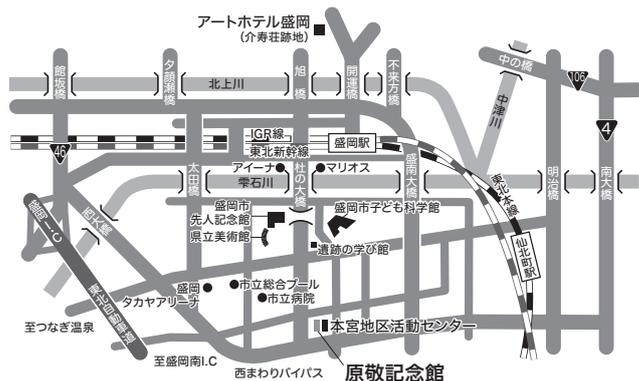
第16回企画展「啄木と修学旅行」

令和4年5月17日(火)～9月11日(日)

盛岡てがみ館

第65回企画展「切手から見る岩手」

令和4年6月28日(火)～10月10日(月・祝)



交通アクセス

【バス】①「原敬記念館前」下車・盛岡駅発着 盛南ループ200・矢巾営業所行 本宮線・羽場線
②「もといち泉公園前」下車徒歩5分・イオンモール盛岡南線
【タクシー】盛岡駅より約5分